

問 豊作は二年続かないといいますが、土壌調査を基礎にした耕種をやつて安定した稲作をしたいと思ひますので、其の土壌調査を進める方法等をおきゝしたい。

答 真に結構であります。願わくば、農家全体が、土壌を知り土壌を通じて新しい技術を取り入れて頂く様念願してやまないものであります。

1. 実施体系
先づこの気運の盛り上がりつた所で、公民館産業部等（仮称）が中心となり、出張所管下の市民館、農協、青年団、4日クラブ等共催4日クラブが実践団体となつて頂くのが最もよい様であります。

2. 運営方法
各部落から調査適当者を推薦して頂き、その方々にお集りを願つて、農業試験場技術者により、調査方法の講習を受けて頂くこととす。

調査回数：三回位に分け、第一回は農家各人三点づつ一番作りにくい田、一番出

来にくい田を調べます。又各人に調査穴を堀つても可い。そうして其の調査間に表土の深さ、砂か埴土か鋤床心土と順次で、土の性質、排水の状態、鉄斑紋の状況分根色素が判り今まで稲の出来が悪かつたわけや、秋落になる原因が判り、ひいては、此の原因を除く手は暗渠か、寄土か、含鉄資材か、肥料も硫酸根でよしか、無硫酸根肥料から紫雲英の功罪、量の問題、品種、育苗方法、栽植密度、灌排水の方法迄、検討が出来る機会が与えられます。この説明はよく納得出来るまできかねばなりません。こうしたふん囲気から、全筆土壌調査の必要が痛感せられ、第二回、第三回と全筆調査に迄進展するというものです。調査の結果は、形式的には村内土壌をいくつかに分類し、各々についで施肥設計、綜合改良対策を立て実践に移して頂くのです。現実には、農協購買部では品種や肥料の変遷、保溫紙の大消化等で最後は生産の安定に進展しますが、要は農業技術に対する理解を深め自負と自信をもつて新技術を受け入れ、消化し、実践する気構えが何よりの必要であります。

八月五日午後時頃、天神小学校三年石倉弘子さん、一年石倉秀子さんの姉妹が遊びに行った処、小川寺部落居住の大森幸美(金三二年)が誤って同用水(巾三尺水深五寸)に転落したので急を姉弘子さんに告げた。姉弘子さんは約三十米離れた現場に急行用水に倒れている被害者をだき起し救助したものであるが、被害者は転落直後救助されたので水ものも居なかつた。姉妹とも学校の成績が良く住民から感謝されている。

	男	女	計
出生	32	48	80人
死亡	8	81	26人
婚姻			26組
離婚			1件
人 口	46,789人		
世帯數	8,971		

将来保育所等児童福祉施設において、児童の保育に従事する保母を養成するため、これに必要な理論技術及び豊かな人間性を培う施設として、県立保育学院が開設され、左記要領により学生を募集しております。

2. 出願期間
昭和三十一年一月四日（火）から昭和三十一年一月八日（火）まで

六、試験科目
1. 学科試験
イ 国語
ロ 一般社会

寫眞募集

主権 労働省 都道府県選挙管理
後援 委員会連合会
自治庁・公明選挙連盟
協賛 社団法人日本写真協
会
婦人が参政権を得てから
十年になる今日、婦人は家
族の一員として、あるいは
地域社会や職場の一員とし
て、めざましいはたらきを
おこなつてゐる。この間に
人の生き／＼とした姿を画
面にとらえて、広く一般に
紹介するため、婦人参政権
十周年を記念して、『社会
とともに進む婦人』の写真
を一般から募集されます。
締切期日 十一月二十日
応募規定その他詳細につ
いては、市選挙管理委員会
にお尋ね下さい。

魚津警察署

市政日誌

今回秋季全国交通安全運動が、全国的に來る十月二十一日より、三十一日まで、実施されることになりまし。その目的とするところは「交通安全思想の普及を図り、円滑なる交通秩序の確立と交通事故の未然防止」にあるのであります。日常市民の皆様には、交通安全については御協力をして戴いていますが、事故発生は次第に増加の傾向を示しており、これはお互いの自覚によつて尊い人命を、尊い施設を、禍より守り、平和な社会をつくらなければなりません。市民各位には、運動の主旨を了解され絶大なる御協力をお願い致します。

記

一、安全運動実施要領

1. 目的

交通安全思想の普及を図り、円滑なる交通秩序の確立と交通事故の未然防止を期する。

2. 実施期間

九月二十六日から十月十日まで

市議會議員協議会開催

市議会特別委員会開催

全二十八日(水)

全三十日(金)

十月一日(土)

全
四日(火)

固苦を思ふ時、
ちつとし

なりました。わけでも大

耕作地が少なく村人の難

せんでしたので、何とか

村人の家計を豊かにした

松倉山から見下す一帯の

となつてゐるのを見て、

也。此の閉塞の台の兼と央

したのか 文化三年（一

した。

十月二十一日より十月三十一日まで

3. 区域
全国一円

4. 実施の主眼事項

- (イ) 対面交通の励行
- (ロ) 正しい横断の励行
- (ハ) 自動車安全運転の励行
- (ニ) 安全速度の厳守
- (ホ) 徐行場所における徐行の励行
- (ヘ) 追越の際における安全確認の励行
- (コ) 学童幼児等通行の保護
- (カ) 踏切における安全確認の励行
- (キ) 自動車等完全整備の励行
- (ク) 道路の有効幅員の確保
- (ケ) 道路の不正使用の禁止
- (コ) 放置物件の撤去
- (サ) 自転車等左側一列進行の励行

二、昨年度に於ける事故概要

計的にみると、実に驚ろく程の数に上りしよかも年を追つて上昇の一途を辿り、特に交通事故によつて多数の人命が失われていることは、まことにゆるがせにできない問題であります。こうした交通事故増加の傾向は、違法観念の欠除と交通道德の低下によるものがある、その大部分を占めているのです。では昨年における県下の事故の発生状況等を検討してみますと、

(7) 交通事故發生狀況
魚津市内において、昨年中に交通事故により五名の死者、八名の負傷者、十六万八千円の物的損害を受けています。更に本年九月までに、死者二名負傷者十三名を出して昨年をしのぐ形成にあります。県下の統計を見る時、年間五十九名と云う死者を出し、更に六四七名に及ぶ負傷者を数え、二、〇五六万八千三百の物的損害を出しているのであります。

市街地に於ては、一般道路が最も多く、三三〇件、次いで交叉点、曲路と云う順であり、非市街地においても略同様の数字を示しております。

(三) 交通事故と天候關係

一年三百六十五日の中、晴天の日には最も事故が多く、四九二件、一日平均三、五件の発生をみており、

次いで、曇天という順を追っている。

(四) 事故による死傷者の年令性別等

六才未満の九五名を筆頭に六才より十二才の小学生層の九五名、次いで二十才より二十四才の青年層、次いで六十才以上の老年層、と云う順を追っており、幼児、小学生等の路上遊戯が、交通禍の因をなしておることは、如実にもの語つています、又死傷男女の比率は年間、男五・二名、女一九・四名となつてお

り、男は全事故の七二・五%を示している。

(4) 交通事故の原因と件数

その大半は運転者の徐行、追越違反或は踏切運転、操縦未熟等でありますが、通行者による原因も相当数にのぼり、特に子供の路上遊戯、車輛の直前直後の横断が目立つて増えており、子供を持つ親は特に注意すべきであります。